

免疫・アレルギー（旧免疫異常）ネットワーク 研究グループの現況

座長 谷口正実[†]第72回国立病院総合医学会
(2018年11月9日 於 神戸)

IRYO Vol. 74 No. 10 (424-427) 2020

要旨

免疫・アレルギー（旧免疫異常）研究グループは、リウマチ、小児アレルギー、成人アレルギーの3班に分かれるが、昭和40年代の国立病院時代の難治のアレルギー・リウマチ患者に対する良質な医療を行うための“政策医療”を基に、相模原病院（当院）が中核施設となり、現在では、50施設以上、100名以上の研究者の参加により、活発な臨床研究を行っている。

・リウマチ班では、世界有数のリウマチ患者登録システムの構築と運用を行っており、そこから数多くのエビデンスレベルの高い成果をあげている。

・小児アレルギー班では、食物アレルギーを中心に、わが国の指導的な立場として負荷試験のネットワークを構築し、世界的な研究成果だけでなく、行政や学校保健にかかわる実績をあげている。

・成人アレルギー班では、喘息をはじめとして多種多彩な難治性アレルギー疾患の診療や臨床研究の国の中心として、多くの世界的な成果をあげている。

・2017年に、成育医療研究センター（小児アレルギー）と相模原病院（小児・成人アレルギー）の2施設が、国のアレルギー疾患対策の中心拠点病院に指定された。これもあり、わが国のアレルギー医療の構築と発展のため、人材育成、難治患者診療、臨床研究の推進に、今後も努力する所存である。

キーワード アレルギー, リウマチ

免疫・アレルギー（旧免疫異常） 研究グループの構成（図1, 2）

平成16年に国立病院から国立病院機構（NHO）病院に移行した。移行した当時の平成17年度のNHO免疫異常研究グループの構成を図1に示す。当時は、厚生労働省から指定された高度専門医療施設である相模原病院（当院）が中心施設となり、各

地域の代表として、リウマチやアレルギー専門医が多い基幹医療施設8施設（相模原含む）、そのほか専門医療10施設、ネットワーク参加11施設の計29施設と参加医師数約60名で運営されていた。当時は、臨床研究だけでなく、臨床や施設の諸問題もよく討議された。その後、平成21年度頃から広く本研究グループへ参加が呼びかけられた。

平成30年（2018）時点でのNHO免疫・アレルギー

国立病院機構相模原病院 臨床研究センター（現所属：湘南鎌倉総合病院免疫・アレルギーセンター）[†] 医師
著者連絡先：谷口正実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター事務室
〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台18-1

e-mail : masamit11111@yahoo.co.jp

(2019年8月29日受付, 2020年10月15日受理)

State-of-the-art Clinical Research in the Field of Allergies and Rheumatism

Current Status of Immunology/Allergy (Formerly Immune Abnormality) Network Research Group

Masami Taniguchi, NHO Sagami Hospital Clinical Research Center for Allergy and Rheumatology

(Received Aug. 29, 2019, Accepted Oct. 15, 2020)

Key Words : allergy, rheumatology